

【資格取得】

環境測定分析士資格取得のすすめ:「ありがとう」のために

環境測定分析士1級

村井幸男

はじめに

私は一介の分析技術者です。仕事は環境測定を中心とした化学分析の実務であり、“精度良い (Quality) - 安い (Cost) - 早い (Delivery)” 分析値を提供するために汗しています。環境測定分析士は職業占有資格ではないので、資格がなくても環境測定の仕事ができます。環境分析ラボには (優秀な) 環境計量士が居れば十分である、との考えも承知しています。また、何ら資格を取っていなくても精度良い分析値が出せるプロフェッショナルな方を何人も知っています。しかし、私は、分析実務者の技術力 (スキル) こそが測定値の信頼性を高め、そのことで感謝され、また分析業務は前向きに取り組むほどリターン (喜び) が大きいと信じています。結果、私は環境測定分析士資格に挑戦し、2006~2009年に3級、2級そして1級資格を取得してきました。私なりの環境測定分析士への誘 (いざな) いを述べてみます。

分析の仕事の喜びと「ありがとう」

受動的/機械的に取り組んでも、分析の仕事は面白くありません。分析実務者自身が前向きに取り組むことで違ってくると、私は考えています。企業や大学の研究所には他所より優れる差別化技術を開発し続ける責務がありますが、同じ組織内の分析技術者はあらたな試料が持ち込まれるとき、わくわくしながら真の要望や要求を聞き出そうとします。蓋を開けて初めてサンプルを見る瞬間は、観察力の愉悦とも言える時間かもしれません。特に前処理は、ノウハウ・コツの宝庫なので工夫の余地が大きくあります。分析装置の調子は常に一定ではなく、ベストな状態を把握し調整・設定するためには勉強させてもらえ小さな発見にも出会えるのではないのでしょうか。そして同じ組織内であっても要領よくまとめた分析結果を報告するときに、分析技術者は分析依頼者から度々/ときどき、様々な「ありがとう」を貰うことになります。抽象的/形式的な「ありがとう」でもうれしいのですが、要求に応えた「ありがとう」は達成感に繋がり、差別化の「ありがとう」は役立ったという手ごたえを実感で

き、感動の「ありがとう」を貰えた際には、「ああ、この会社に勤めてよかったなあ、分析の仕事でよかった」にもなります。すなわち、図1のとおり「ありがとう」は階層構造になっているようです。分析実務者の前向き姿勢を基本に、実務スキルを駆使すれば、職場に「ありがとう」が溢れるのではないのでしょうか。

求められていること

非鉄・石油会社の中央研究所に39年、私立大学の環境保全センターに5年、その後、産業廃棄物処理・リサイクル会社の処理工場に勤務し、優秀な研究者・技術者・学生に囲まれて分析部門で仕事をしてきました。優秀な研究者・技術者ほど「世界トップレベルの分析」「よそでは出来ない分析 (Quality/Cost/Delivery)」「競合他社より優れる分析 (技術者)」を求め、一方で「うちの分析技術レベルは他社に劣るのでは?」「うちの分析技術者のレベルは二流ではないのか?」などの疑問を隠し持っていると思っています。日本だけでも千を超える分析ラボがあり、数万人の分析技術者がいる中で、自社ラボの分析技術者であっても存在意義を確立する必要があるようです。存在意義の尺度は分析者側からは、自分達で推察できる貢献度であり、お役立ちの程度でしょう。依頼者側からは、

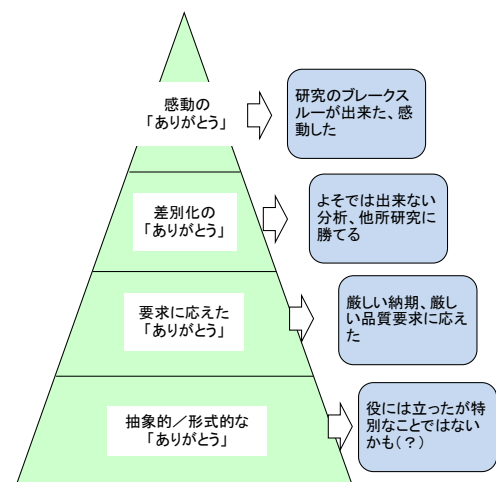


図1 依頼者から分析者への「ありがとう」の階層構造

勝てる差別化技術への貢献であり、生々しく表現すれば「これが出来なくても負けない分析」は必要なく、「これが出来ないと負ける分析」であることが必要条件であり、さらには「これが出来れば勝てる分析」が求められています。外注分析で対応できることを理由もなく本体で抱え込んでいる余裕は、日本の殆どの企業にはありません(図2)。

企業及び大学の研究所の分析部門に対して本質的に求められているのは、「よそより優れる分析」「よそでは容易に出来ない分析」「よそでは全く出来ない分析」でしょう。このとき分析部門の要素は設備*お金*人ですが、何より基本は「人=分析技術者=分析実務者」です。分析実務者自身が、よそより優れること、よそでは出来ないことが出来る人材と証明する必要があるのではと、私は考えています。

環境測定分析士試験が問うこと

環境関係の分析技術者に取り組むことを勧められている資格は多過ぎます。環境測定分析士の他に環境計量士、技術士(環境部門)、化学分析技能士、作業環境測定士、公害防止管理者、検査分析士・・・これら分析技術や環境関係の他に安全衛生、語学、情報処理関係まで含めると30~40資格にも上ります。知識の筆記試験では、異なる資格試験なのに似通った設問も見られます。何より受験生の時間をもったいなく、価値あるものに絞り込む必要があります。

個人的見解ですが、分析データの信頼性を高め、より上位の「ありがとう」に繋がる最も重要なスキルは、分析技術上の課題を抽出し、検討計画を立て、解決策に導く【課題解決スキル】ではないでしょうか。次いで真の要求を聞き出し、要領よく分析技術を説明する【応対スキル】があり、更に緻密で正確、手際よい【実験スキル】が重要だろうと思っています。私が受けた環境測定分析士試験は、【課題解決スキル】、【応対スキル】及び【実験スキル】をしっかり問う内容でした。そもそも環境測定分析士試験は、分析技術者の実務能力を評価するために存在しています。

おわりに

分析技術者はときに、「縁の下の力持ち」と揶揄されることがありますが、本来は主役で日の当たるべき存在だと思っています。ただ、役立ち方がどうしても間接的/サポート的なポジションになります。だとすれば、たくさんの分析技術者が環境測定分析士資格を取得し、プロフェッショナルを自他ともに認識する環境の中で、「よそでは出来ない分析」を次々に提供しましょう。その結果、「ありがとう」をたくさん言われる幸せな分析技術者と職場が増えることを願っています。

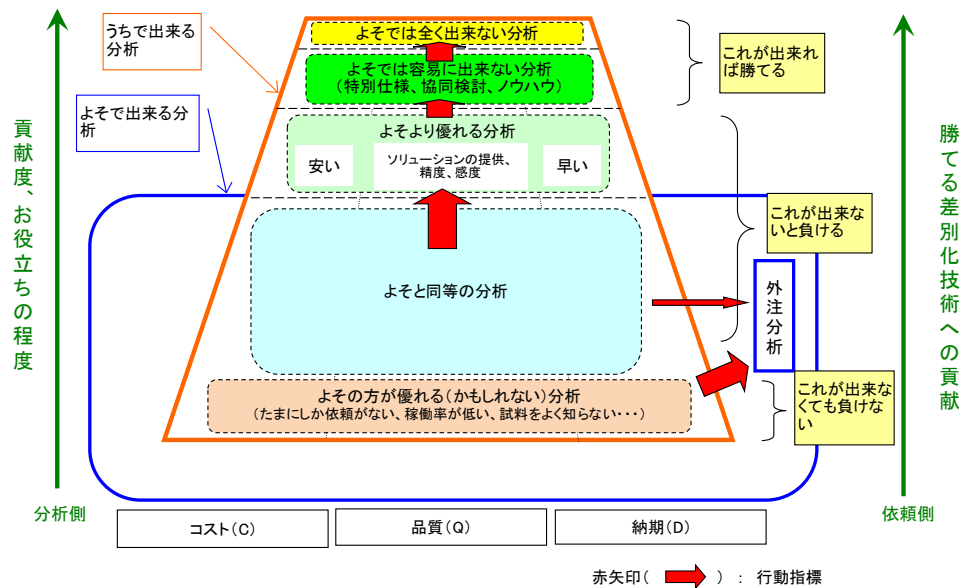


図2 よその分析ラボとの比較視点からの価値